



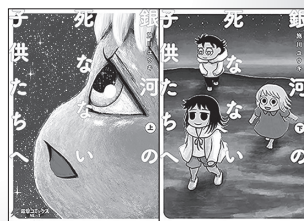
「生きる」とはどういうことか、「死ぬ」とはどういうことか。明確な答えが出ることのない根源的な二つの問いには有史以来多くの人々が思いを巡らせてきた。今回紹介する漫画『銀河の死なない子供たちへ』は、永遠の生命を手に入れた子供たちと限りある生命しか持たない少女とが交流する姿を通して、そうした問いに取り組んだ作品である。

物語の舞台は遠い未来、人間がいなくなった地球。少女πと少年マッキは不老不死の存在として、変わることのない毎日を過ごしていた。ずっと大地に寝転がったり、ずっと星空を眺め続けたり、ずっと同じ本を読み続けたり。単調な日々を送る二人をよそに世界は常にその姿を変えて、生き物は次の世代へと命をつなぐ。世界の移ろいから完全に切り離された二人は自分自身に強い疎外感を感じていた。そんなある日、二人は地球に不時着した元地球人の女性パイロットと出会う。重傷を負っていたパイロットはミラという名の女の子を出産し、初めて出会った子供たちに小さな我が子を託して死んでいく。

銀河の死なない子供たちへ

変わらないままにいるπ、マッキと違い、ミラは二人のもとですくすくと成長し、少しずつ大人になっていく。世界と接していく中で、そして、変わらないままの二人との差を実感していく中で、自分がいつかは死を迎える存在であることを理解していく。だからこそ、一瞬一瞬をかけがえのないものとして生きる。不老不死の子供たちは、いつか死んでしまうミラとのふれあいを通して、変わりゆく世界の中に足を踏み入れることになる。生きること、死ぬことの意味を子供たちは学んでいく。

生きている者には必ず死が用意されている。生命の残酷さに対峙しながらも、彼らは生きること、死ぬことについて懸命に考え続ける。考え続ける彼らの姿には生命への希望と力強い意志が満ち溢れている。



『銀河の死なない子供たちへ』

著者：施川ユウキ

出版：KADOKAWA

価格：上巻616円

下巻648円（ともに税込）